南国意外史(9)
中学生、ソ連宇宙船に乗組み志願

二十年ほど前に、南国市内の男子中学生が、ソ連政府に手紙（日本語）で、同国の宇宙船に乗込ませてもらいたいと申込んだ。

どうもはっきり思い出せないが、同国が世界初の有人宇宙船ボストーク一号を打上げた後、いつかどこの国の人でも乗り組んでもらうことになろう……と発表したかに思う。

中学生に届いたソ連の返事は、昔のダンスのカギのような字が混じるあの国の文字で、内容のあらましは……《今はまだ希望にそえないが、いつかその日がくることになる》といったもの。

この中学生の氏名を、なぜか思い出せない。丸坊主にしていて、肉付きがよい大柄の少年であった。住所は稲吉の西の方で、氏神さまに近かった。もう三十歳の半ばであろう。

〝三つ子の魂百まで〟のことわざのように、空への関心を捨てきれずに成人し、空に関係ある仕事をしているのかも……。

とにかく、珍しい話である。定かではない記憶を残念に思いながら、歌の文句に似せて今言いたいのは……

この少年を知らないか
心当りの方はないものか

（中学生はソ連の手紙をある新聞の編集局長に郵送して翻訳を依頼。私は、原文と日本文になったものを預かっている。この少年に届け、前後の事情を……。）

三谷勇喜（大埇）

詩
本だなとステレオ

むすこよお前の趣味は
アマチュア無線にロック
読書にすもう……
ピーピ〝こちら〇〇どうぞ〟
ブカブカドンドン
あまりのやかましさに近所から
文句を言われて
すみませんごめんなさい
全くあきれた
せめて読書だけなら
どんなに静かでいいだろう
けれど県外へ
就職してしまったむすこ……
へやをのぞくと
本だなとステレオと
むすこが作った
木製のスピーカーが
ほこりをかぶって
寂しげにすわっていた
〝本だなさんだれもおらんのに
もうその重い本を
おろしたらどうかね〟
ステレオがそう言っている
〝だけど主人が帰って来たら困
るじゃろう
私はやっぱりこのままでええ〟
そうこたえて本だなは
本を背ったまま
壁によりかかっていた
それじゃおやすみ
ステレオがつぶやくとその声は
またもスピーカーを
通ってしまう　ボァーン！
〝それじゃあおやすみ！〟

刈谷益子（後免町）

多発する水死事故に思う

暑さも一段ときびしさを増し、水の事故の多い季節となった。

昔、私たちの子どもの頃には、今ほどに水死事故はなかった。昔と今を比較してみると、なぜ今は事故が多いのだろうか。

第一に考えられるのは、過保護によるのではないだろうか。

私たちの子どもの頃には、小川や池、沼で泥だらけになって魚とりをしたり、木登りをしたり、牛のふんをかき分けて川で泳いだものであるが、手足を折ったり病気になったりする者はいなかった。

今では、川で泳ぐのを止めプールで泳ぐため、水の流れや底がどうなっているのか知らない。

昔は自然になじんだ。川の深み、池の底の藻や泥についてよく知っていた。高い木に登ろうとするとき、深い川に潜ろうとするとき、子ども自身が身のまわりに安全を創造していた。魚つりにも子ども どうしで行ったが、危険なところには近づかなかった。人に言われなくても、子どもなりの本能で危険を感じて近づかなかったものと思う。過保護に育った子どもは、本能の働きが鈍く、事故にあいやすいのではないだろうか。

私は、保育所の近所で、いつも保育所や小学校の子どもたちを見ている。

親といっしょにくる子どもが、たまに一人でくるときがある。その時はきまったように道の真ん中を通り、車がきてもなかなかよけようとしない。一人で毎日通園している子どもは、必ず道の端を通っている。泥だらけになり、ころんで血だらけになっても泣きもしない。過保護の子どもは泣きながら家に帰る。

数えればきりがない。一つの例をとっても明白なことである。過保護の子どもは、依存性の強い、手前勝手な人に育っていく。

自分の肌で感じ、雑草のごとく育ててこそ、自立自営、質実剛健にして何事にもくじけない立派な社会人として育っていくということを信じてやまない。

杉本　宏（八幡・五十四歳）

親子クイズ 16

ご家庭で話し合って答えてください。答えは、この広報に出ています。

■**もんだい**・市税、とりわけ〇〇〇税の納税率が年々低下し、本市の悩みのたねとなっている。

■**しめきり**・九月十六日（火）

■**おくり先**・〒783　南国市大埇甲2301　南国市役所内広報委員会　親子クイズ係

■答えのハガキには**必ず、住所・氏名・年齢・職業**を書いてください。

■**賞品**・特賞千円＝三人、残念賞（記念品）＝五人

第107回正解者発表
（応募総数51通）

■**こたえ**・⑭⑩社会保険事務所でした。

■**特賞**・千円＝三人
片岡賀寿さん（大埇）
戸田百合子さん（国分）
岡本典子さん（植野）

■**残念賞**・記念品＝五人
前田誠（下野田）北村成史（十市）田中文苗（東崎）竹村幸子（植田）小笠原美鳥（領石）

〝話題〟二つ

私たちの学生の頃は、高知までの自転車通学はあたり前で、雨の日の補装していない道路では、タイヤが泥に入って踏めなくなるのはごくありきたりのことでした。

市内の、ある中学校の先生に自転車で通勤されている元気者がいます。家が五台山なのでかなりの道のりがあります。

雨の日も、風の日も休まず、自動車やモーターバイクに色気を出さずに自転車を踏んでいる姿は偉いと思います。もう、すでに三台ほどを乗りつぶしたとのことです。

これぐらいの距離ともなれば、今の時代に、しかも若い先生が自転車を愛用するのは珍らしいことです。

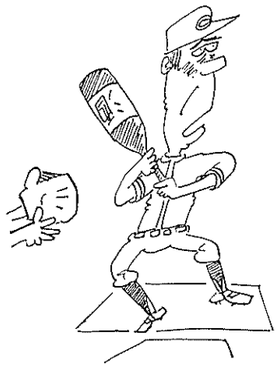
また、封建時代の家老の家といえば、かなりきびしい〝しつけ〟が行われていたと想像できる。

その子孫の方が最近病気になったが、医者にかかろうとしないで亡くなられた。その人の言うのには、自分はもう年に不足はないし人様にもずいぶんお世話になった。

医者に見ていただいて全快しても、年寄りなので人の為につくすことができない。人のお荷物になるだけだからと家族の者に言って死んでいったとのことである。

人によって考え方はいろいろあると思うが、私は、この二つの話は、何かを考えさす力をもっていると思います。

教育委員長・藤本茂樹



二日酔（早朝野球）

広げよう……〝明るいあいさつ運動〟

家庭で、学校で、近所で、職場で……『明るいあいさつ』をしましょう。

〝おはよう〟〝こんにちは〟〝さようなら〟〝ありがとう〟など、明るい元気なあいさつは、お互いに気持ちのよいものです。

三和地区の民生児童委員会、小学校、公民館では、『明るいあいさつ運動』を地区ぐるみで進め、市内全域に広めようとはりきっています。

明るい社会は、まず〝あいさつ〟から……。

南国歌壇

恩讐の日々も過ぎたり老づきて
独り穏しく朝湯に浸る　植野　永野美由

川の辺に香き幼日顕たしめて
蛍とび交ふ故郷の初夏　久礼田　田村恵美子

水泳に興じる子らの影もなく
冷夏の里に秋は立ちたり　亀岩　島本　栄

重障にめげずいそしむ人達に
暗き影なきリハビリテーション　立田　北村ちづ

雲垂るる夕の空を列なして
西に向へる白鷺の群　西島　門田美枝子

南国柳壇

喘ぎ飲む峠の水に味があり
岡豊町　橋田井波

コンバインの色カラフルに刈り入れ期
古市　島田八重子

クーラーは贅沢ですと扇風機
後免町　隅田俊作

盆踊り上手下手なし個性いかせ
立田　清岡照子

来て見いやヨッチョレ節が
土佐の顔　十市　沢村鶴一

南国俳壇

茗荷採る匂ひの風に漂ひし　林　広裕（梵鐘句会）
山蔭となりて睡蓮閉ぢそむる　竹内隆造（〃）
蛾のとんで花咲き揃ふ烏瓜　高橋　蛙（〃）
死期が来た夏蝶低く低く飛ぶ　和田ひでみ（岩村句会）
立葵四五戸相寄る時計音　西本かよ子（〃）
桔梗ひとつふたつ愁眉をひらく朝　大畠新草（〃）
夏枯れの叢とがる自己主張　門田けんぶ（芽花の会）
カラスがカァカァないてると　西村ひさゆき（〃）
ツバメがきいてこんにちわ　西村ひとし（〃）
原爆忌木蔭はみでて影法師